「和算書・算額」それは「江戸時代から現代への手紙」を出版して

平成23年1月13日　保板良興

20 数年前から江戸時代に発達した日本の数学(和算)に興味を持ち、少しずつ調査研究したものを、友人の奨めもあり出版しました。この本は、 122 頁、3 章構成になっております。

第一章は、最上流の和算家で秋田藩校・明徳館で算額を教えた大槻友直の書籍を子孫の了洋氏から直接見せていただいたときの所感や、県内の算数の絵馬(算額という)を持っている神社を訪ねたとき感じた算額の意義や、その保存の大切さ述べ、幕末の東北の和算家とその師流・書誌・算額数を概観したものである.

第二章は、備忘録ともいうべきもので、和算の記号例、天元術と算木・算盤、零約術(無限少数を近似分数で表すこと)、遊び心と算術、秋田の寺子屋、大曲の和算家・佐々本房之助の免許状、算額を用いた実践授業が行われていること等を示した。

第三章は、県内神社に奉納されている算額問題の読解と現代的解（１６問と別解６問）を載せている。

＊ 1600 年代に、算聖・関孝和が傍書法によって紙上で演算を行う筆算代数(後に点宙術と言った)を創始し、多元高次方程式が解けるようになり急速に和算が発展していく。算額には、図形の中に図形を接するように容れる接触問題(図形題)が多い。和算を学ぶものものも、大名、武士、農・工・商にたずさわる者、町人、神官、僧侶とその層は広く厚い。和算の学問の深さ、層の広さに欧米の人たちも驚いた程であった。

現存算額は岩手、福島は１００面以上あるが、秋田は県南に８面が確認されている.県内には、未発見の算額もあると思う。ご存知の方のご一報を頂けますれば幸甚に存じます。

＊ この本は、秋田県立図書館と私田市立中央図書館に寄贈している。

略歴

昭和５年、 私田市十崎港生まれ

秋田市立高等学校(現 秋田県立中央高等学校)昭和25年卒業

秋田大学学芸学部(現 秋田大学教育文化学部)数学科 昭和29年卒業

元 秋田経済壮科大学附属高等学校(現 明桜高等学校)に４２年間奉職 数学担当

元 秋田県数学教育研究会員、 元 日本数学教育研究会員

元 秋田県高等学校 学校図書館部会 副部会長